

学校のトイレ／第30回全国トイレシンポジウム 開催迫る

こんなに大事な学校トイレ ～ 現状・課題・対策

<開催概要>

タイトル 学校とトイレ／第30回全国トイレシンポジウム 2014

テーマ こんなに大事な学校トイレ — 現状・課題・対策 —

共催 世田谷区、世田谷区教育委員会、日本トイレ協会

日時 2014年11月15日（土）

受付：9:00～ 開演：9:30～ 交流会：18:45～

会場 世田谷区立世田谷中学校体育館 <東京都世田谷区梅丘3-8-1>

後援 文部科学省、東京都教育委員会、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本建築家協会、
一般社団法人日本医療福祉設備協会、医療福祉環境エビデンス研究会、
一般社団法人日本医療福祉建築協会、公益社団法人国際観光施設協会、
一般財団法人自然公園財団、都市環境デザイン会議、
一般社団法人日本福祉のまちづくり学会、NPO給排水設備研究会、
NPO法人地域交流センター、全国管工事業協同組合連合会（予定・順不同）協賛 TOTO株式会社、株式会社LIXIL、一般社団法人日本衛生設備機器工業会、日本カルミック株式会社、株式会社アメニティ、株式会社総合サービス、湘南ステーション株式会社、
中日本ハイウェイ・メンテナンス中央株式会社、株式会社シミズオト、株式会社井戸屋
日野興業株式会社、住友ベークライト株式会社、MRC・デュポン株式会社、桜木神社

参加費 無料（但し概要集 1,000円）

事務局 日本トイレ協会第30回全国トイレシンポジウム実行委員会

<問い合わせ先> 全国トイレシンポジウム実行委員会事務局 渡部敏子

112-0003 東京都文京区春日 1-5-3 春日タウンホーム 1FA

Tel 03-5805-3556 Fax 03-5805-3557

e-mail sympo@toilet-kyoukai.jp**■プログラム（案）**

○ 9:00 開場 <受付>

○ 9:30～ 9:50 挨拶

- ・実行委員長挨拶 小林 純子〔日本トイレ協会副会長〕
- ・主催者挨拶 保坂 展人〔世田谷区長〕
- ・主催者挨拶 高橋 志保彦〔日本トイレ協会会長/神奈川大学名誉教授〕

○ 9:50～11:20 基調講演 対談形式（90分）

（仮題）「これからの学校施設におけるトイレ改善の意味」

長澤 悟〔東洋大学名誉教授〕 新保 幸一〔文部科学省官房文教施設部技術参事官〕

○11:20~12:00 **事例発表 1 (40分)**
・(仮題)「15年間トイレ改善に取組んだ先事例」 安間 正伸〔世田谷区教育委員会事務局施設課長〕

○12:00~12:25 **事例発表 2 (25分)**
・(仮題)「学校のトイレ改善の動き」 河村 浩〔学校トイレ研究会〕

○12:25~12:45 **グッドトイレ選奨 応募作品紹介**

○12:45~14:30 休憩 グッドトイレ投票 学校トイレ事例展示 企業等商品展示・山崎小学校トイレ見学

○14:30~16:30 **分科会 (120分)**

分科会1 学校トイレの現状と課題 体育館 コッパネーター 小林純子 〔日本トイレ協会副会長 (有)設計事務所ゴンドラ代表〕 パネラー 武田充攻(川崎市教育委員会事務局教育環境整備推進室) 野田敬三(近江八幡市教育委員会事務局教育施設整備推進室) 平岩正行(神戸市住宅都市局計画部まちのデザイン室) 及川幸子(南三陸町議会 議員) 原 昭夫(自治体まちづくり研究所世田谷区都市計画審議会委員)	分科会2 学校トイレのメンテナンス 多目的ホール ～ 清掃は誰が? 維持管理は? 予算計画は? コッパネーター 坂本菜子 〔日本トイレ協会副会長 坂本菜子コンフォート研究所代表〕 パネラー 磯田 勝(さいたま市立学校事務職員研究協議会会長) 瀬古浩史(株)フメニティコスモス代表取締役) 井上和男(日本トイレ協会メンテナンス研究会幹事) 村上八千世(アクトウェア代表)
--	---

○16:30~16:45 休憩

○16:45~18:05 **プレゼンテーション・セッション 5組 (80分)**
～日本トイレ協会 会員による研究発表～

以下全て 仮題

- | | |
|--------------------------------|---------------------|
| ① 小中学校のトイレの色彩環境のあり方 | 大手前大学教授 山下真知子 |
| ② 母校の高校のトイレ改修に携わって | 立教大学学生 福代梨里花 |
| ③ トイレ、その向こうに見えるもの | みんなにやさしいトイレ会議 竹中 晴美 |
| ④ 災害対策としての井戸利用「自然水の活用を通して社会貢献」 | (株)井戸屋 綾 久 |
| ⑤ 学校トイレをARTな空間に | AS 輪組 中野 晶子 |

○18:05~18:15 **総括** あいさつ 山本 耕平 (日本トイレ協会副会長)

○18:45~20:45 **交流会** 参加費 3,000円 世田谷区民会館内「レストラン けやき」

・「グッドトイレ(作品・活動)選奨」発表・表彰

▼企業展示 会場 体育館 展示期間

11月15日(土)9:30~18:15

<募集要領は別紙をご参照ください>

▼グッドトイレ選奨 会場 体育館展示期間

11月15日(土)9:30~18:15

▼交流会会場 世田谷区民会館内 レストラン「けやき」

<東京都世田谷区世田谷4-21-27 区役所に隣接>

11月15日(土)18:45~20:45 会費3千円



世田谷中学校へのアクセス

東急世田谷線 若林駅下車 徒歩10分

東急世田谷線 渋谷駅から東急田園都市線三軒茶屋乗換

小田急線 梅が丘駅下車 徒歩10分

◆講演レポート◆

「トイレのピクトグラム（シンボル）誕生と デザインから語る東京オリンピック 1964 年」



講師：デザインディレクター 道吉 剛氏

⑥ 月 24 日（土）に、東京都港区赤坂見附で開催された日本トイレ協会総会の終了後、今では世界中で見ることができるようになった、トイレのピクトグラムの誕生秘話を伺いました。非常に貴重な記録です。

1、オリンピックとデザイン

みなさんは、トイレのピクトグラムが、1964（昭和 39）年の東京オリンピックがきっかけで誕生したことをご存知でしたか？ 私は当時、組織委員会のデザイン室の一員として、東京オリンピックの運営に関わりました。50 年前のことですが、今日はその頃の話をご披露しましょう。

さて、デザインがもたらす効果は、単に形や色がキレイとか雰囲気が良いという事以上に、言葉の通じない外国の方たちを、効果的に且つ安全に誘導するという重要な目的が含まれております。当時の東京は再開発で首都高ができるなど、街中のインフラ整備が進んでおりました。特に東京の場合、アルファベットを使用しない国の開催地でしたので、日本語しか分からない日本人にも、そうではない人達にも、分かりやすい表現が重要視されました。ちなみにオリンピックの観戦者の約 8 割以上は開催国民だそうです。



講師の道吉剛先生。貴重な資料をご用意いただき、当時の様子を具体的にお話し頂きました。



東京オリンピックのポスター第 2 号（1962 年 5 月発表）。躍動感溢れるデザインに、誰もが魅了された。（AD＝亀倉雄策／写真＝村越襄・早崎治／9 万枚作成／印刷＝大日本印刷・凸版印刷）

オリンピック東京大会の組織委員会は、現在の赤坂迎賓館の建物に設けられました（余談ですが、赤坂迎賓館は元々、大正天皇のご住居で、フランスのベルサイユ宮殿を真似てデザインされたそうです）。デザイン室はその玄関付近に設けられ、デザイン室事務局は 9 名で構成されました。開催年だけでも関わったデザイナーはのべ 100 名以上になるでしょう。当時は、パソコンやコピー機など便利な道具は無かったので、すべて手描きで仕上げたことが、懐かしい思い出です。

当時を知る世代の方にとって、特に印象的だったのは、東京オリンピックの公式のマークやポスターではないでしょうか？ これらは日本の国旗の色である白と赤をモチーフに、デザインされました。ポスターは、陸上競技で選手が一斉にスタートするシーン（左写真）や、水泳選手が勢いよく泳ぐシーンなどもありました。迫力のあるセンスのよいポスターは街で貼られていたものを剥がして持ち去られてしまうほどの人気でした。実はオリンピックは、スポーツの競争であるのと並行して、芸術展示も同時に開催されます。だから私たちも真剣でした。視覚的なデザインの中で、特に一新したのは、欧文の文字の書体

(=フォント)です。それまで日本では、古臭い印象を与える書体しかなかったので、ヘルベチカというヨーロッパ最新の書体を採用しました。その書体は今でも道路標識の表示などで使われています。これにより、街やイベント全体が、統一感のある近代的で勢いのある印象に生まれ変わりました。

2、世界初のピクトグラムの誕生

そんな具合で、デザインチームは動いておりました。オリンピックの入場券のデザインは、原弘氏により、開催される2年前に始まりました。必要な情報は日本語・英語・フランス語で文字を表示し、競技の開催時間も数字と共に、時計の針の絵(3時なら丸い時計盤に長針が12を、短針が3を指す)で示したという具合です。

そして陸上競技では中央には「走る人」を描いたシンボルが入りました。これが五輪大会初のピクトグラム(=シンプルなシンボルでモノや目的を伝える手法)の誕生です。一目で、どの競技の入場券か?が判りました。このシンボルのデザインは山下芳郎氏で、優れたイラストレーターでしたが、スポーツをあまり判らない人でしたので、苦勞もありましたが、逆に「どう表現すれば、初めて見た人にも判り易いか?」を考え、工夫し、実地検証する上で、非常に効果的でした。



施設を示すピクトグラムの一例。シンプルで分かりやすい。世界で最初の試み。元々の原案は白黒だった。全部で39種類ある。

こんな状態でピクトグラムが使われ始めたわけですが、だとしたら「施設を示すピクトグラムも考え出そう」ということになり、開催まで半年しかない1964年3月に、急遽作ることになりました。例えば、多くの施設にある救護室や軽食堂をシンプルに図形化するという具合です。ただしシンボルだけでは伝わるか不十分ですので、言葉もセットで表示することにしました。特に日本で親しみがなかったのは「サウナ」の存在でした。そこで担当者がわざわざサウナの使用体験をしたほどです。そしていよいよ、誰もが使用するあの「トイレ」のピクトグラムが、考案されることになりました。

3、トイレのピクトグラムと、色の関係

トイレは日本では当時「厠(かわや)」とか「便所(べんじょ)」や「お手洗い(おてあらい)」と呼ばれてきましたが、この時にトイレを示す、英語の「TOILET」とフランス語の「TOILETTE」を元にして、「TOILET」(=トイレ)という言葉が登場しました。それがその後、日本中に広まったことは言うまでもありません。トイレのシンボルを人の形にした理由ですが、実は排泄する場所を示す・・・と云うより「男女」の違いを示すことに着眼した気がします。つまり「男性用便所」と「女性用便所」を空間的に区別させるために、人の形をモチーフにしたわけです。そして女性をスカート姿にすることで、(当時はミニスカートが流行っていましたから)女性らしさを表現しました。初めの原画の段階では、白い背景に黒いシンボルというモノクロでした。ただし、まだシンボルとして定着していませんでしたので、下側に日本語英語・フランス語の3カ国語を併記しました。これらのピクトグラムは、先ほど紹介した迎賓館の地下にある会議室で、シンボル部会の田中光一氏ほか精鋭10名のデザイナーたちによる共同作業を経て考案し、デザインされました。次に色について説明します。東京オリンピックでは、競技場群を示す区域の色を決めていました。

これを「エアーカー」と呼びました。具体的にはオレンジ色は明治公園周辺の競技場、青色は代々木公園周辺の、緑色が駒沢公園周辺の、そのほかは茶色…という具合です。その色を会場の標示物にも刷り、会場の雰囲気を感じのある色で盛り上げました。その結果、施設用のピクトグラムも、この色を背景にした表示を作成し、シンボルそのものは（黒色ではなく）ネガに反転し白色で刷られました。よって、トイレは（現在のように男性が青系で女性が赤系の2色ではなく）代々木公園周辺のトイレなら青色の背景に、白い人型（男女）が中央に描かれた…という具合です。なお、右下の写真は（編集部注：この「日本トイレ協会ニュース」は白黒で印刷されているので、色が分りにくいと思いますが）右の女性マークの方は、明治公園周辺のピクトグラムなので、背景がオレンジ色に塗られています。

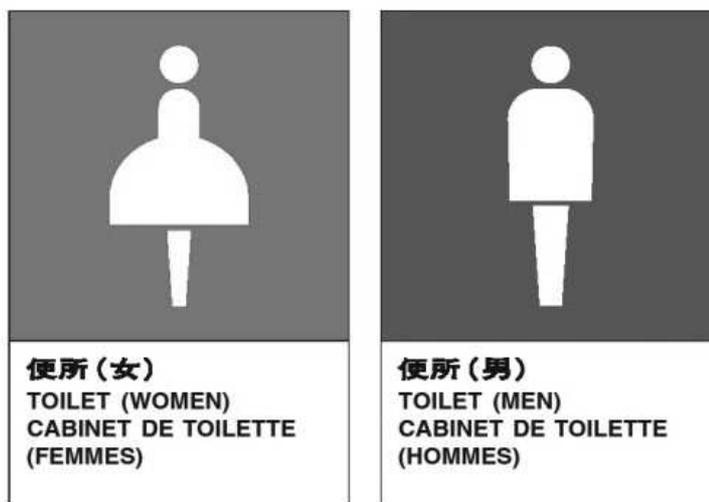
また左側の男性トイレの方は、青色の背景に白い人型のシンボルなので、代々木公園周辺の様子を撮影した写真だと分かる…という具合です。なお、左側の写真ですが、実は当時の様子を物語る貴重な記録が残されています。

このピクトグラムの左下に文字が表示されており（前掲）、さらに上にも太く大きな文字で「男子手洗所 GENTLEMAN MESSIEURS」と3カ国語で書かれています。これはつまり、トイレのピクトグラムが未だ知れ渡っていなかったのがトイレだとの文字に気が付く人が少なく、利用者から質問が相次いだので、急遽手書きで大きく貼紙を加えた…という具合です。最初はまだまだ、そんな状況でした。なおこの写真は（当時の雑誌はまだ白黒が主流でしたが）カラーで刷られた雑誌に運良く掲載されていた、貴重な写真です。

このピクトグラムの左下に文字が表示されており（前掲）、さらに上にも太く大きな文字で「男子手洗所 GENTLEMAN MESSIEURS」と3カ国語で書かれています。これはつまり、トイレのピクトグラムが未だ知れ渡っていなかったのがトイレだとの文字に気が付く人が少なく、利用者から質問が相次いだので、急遽手書きで大きく貼紙を加えた…という具合です。最初はまだまだ、そんな状況でした。なおこの写真は（当時の雑誌はまだ白黒が主流でしたが）カラーで刷られた雑誌に運良く掲載されていた、貴重な写真です。

4、トイレのピクトグラムの発展

こうして、ピクトグラムが誕生したのは、確かに東京オリンピックですが、定着と云うには、まだまだだった気がします。なぜなら開催期間がたったの半年間だったからです。一方で1966年、IATA(国際航空輸送協会)がピクトグラムの利便性を認め、導入し、世界に伝播・普及しました。その後、デザインは改良され、6年後の1970年に大阪で開催された日本万国博覧会で、再度使用されました。期間は6か月におよび、そこには6421万人が来場しましたので、そこから日本国内では本格的に定着し始めたと思われる。



世界初のトイレのピクトグラム。女性のスカート姿が可愛い。最初は白黒でデザインされた。しかし、エアーカー(競技場群ごとの色)が決まると、背景がそのエアーカーに刷られ人型の部分は白色になった。また当時はこのシンボルだけでは分かり難いので、3ヶ国語(日本語、英語、フランス語)も併記された。



トイレのピクトグラムが実際に掲示されている様子を伝える貴重なカラー写真。右がオレンジ色で、左が青色に刷られている。しかも左ではマークの上下に文字の表記が…。当時はまだ、トイレを示すピクトグラムとは初めてで浸透していなかった。「季刊 グラフィックデザイン」(18号, 1965)より転載。

ちなみに、1974年にアメリカ合衆国の運輸省施設局で、国内のピクトグラムを統一しようという動きが起こり、数年かけてデザインの研究がなされました。デザインはアメリカ・グラフィック・アーツ協会が担当しました。1976年に日本語版が刊行されました（編訳：ココマス委員会, 宣伝会議刊）。トイレのマークのリストもありますが、その最も古いデザインは、まさにあの東京オリンピック（1964年）のピクトグラムでした。つまりここからも、あのピクトグラムが世界に与えた影響の大きさが、証明できます。デザインは年代ごとや国、地域ごとに、いろいろ手が増えられましたが、人型のシンボルによるデザインは基本的に変わっていません。

なおピクトグラムの著作権ですが、誰もが使えるように自由にしました。第18回オリンピック競技大会（東京/1964年）の終了後、デザイン室ディレクターの勝見勝氏によって OOC（The Organizing Committee for The Games of The 18th Olympiad=当時の日本国内のオリンピック委員会）を経て、IOC（国際オリンピック委員会）へ寄託されたのです。その結果、ここまでの広がりに至っているのでしょう。またアレンジされた別のデザインも、最近では数多く見受けられるようになりました。

5、どうして青色と赤色の2色??

ちなみに、最近トイレを示すピクトグラムが、「男性が青系の色」「女性が赤系の色」の2色で表現されることがありますが、それは1964年の東京オリンピックより後に広がったと思われます。その理由ですが、アメリカ本国での幼児の服装色の習慣が、男子はブルー色で女子がピンク色が一般的だったようです。また今の代々木公園付近（東京都渋谷区）は以前、ワシントンハイツ（=戦後の在日米軍施設）になっており、そこにいたアメリカ人の男の子がブルー色の服を、女の子がピンク色の服を多く着ていました。おそらくこれらの影響で、青色と赤色が男女の性差を示すのに相応しいと考えたのだと思います。これなら遠くからでもひと目で区別が付くので、今でも良いアイデアだと思います。

今、振り返ると、たくさん作られたピクトグラムの中で、最も普及したのは「トイレ」です。トイレを探すのに困らないという利便性が人々に受け入れられ、今では世界中で採用されています。まさに日本発信の文化です。今風に言うなら「おもてなしの心」の象徴でしょう。これは誇りに思っていて良いと思います。これから日本では2020年に2度目のオリンピックが開催されますが、日本の良い文化が、若い人たちの創造力で、また世界に向けて発信されるのを期待しています。

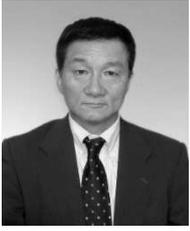
おまけ！
表彰台は、道吉先生の
デザインなんです
よ！！



◆講師プロフィール◆道吉 剛（みちよし こう）
1933年岡山県津山市生まれ。桑沢デザイン研究所卒業。国際誌『季刊グラフィックデザイン』編集部、（財）オリンピック東京大会組織委員会デザイン室で運営担当、（財）日本万国博覧会協会副参事デザイン担当、武蔵野美術大学特別講師、ユネスコ・アジア文化センター「図書開発」企画編集委員・デザイン担当、「造本装幀コンクール展」（主催：日本書籍出版協会・日本印刷産業連合会）後援：文部科学省・経済産業省・東京都ほか）審査委員長、日本図書設計家協会初代代表などを歴任。代表作に東京大学出版会のマークなど。現在、日本出版学会会員。道吉デザイン研究室代表。

■感想：あのマークが日本発信だったなんて、感動しました。良い文化をこれからも日本から広げたいものです。

【記録：白倉正子（日本トイレ協会理事/アントイレプランナー代表）】



災害対策としての井戸利用

< 自然水の活用を通して社会に貢献 >

(株) 井戸屋 代表取締役社長 綾 久

井戸屋（井戸掘り）を始めたきっかけは、平成7年の阪神大震災でした。あの時、水さえあれば助けられた命があったのではと思います。平成8年井戸水で命が救われれば、いつか日本に災害が起きた時、お役にたきたいとの思いで、井戸掘りの経験もない、機械もないところから井戸屋を創業しました。

おかげさまで、会社設立から19年たった今では、井戸施工件数は1700件を超え、湘南地区での施工件数はNo1になりました。神奈川県内でも大きく受注を伸ばしております。

湘南カントリークラブや戸塚カントリー倶楽部、厚木カントリー倶楽部など神奈川県の名門コースといわれるところから発注を頂きました。ほかに箱根神社、鎌倉の八幡宮や円覚寺、湘南中央病院、公共工事ではUR都市機構、藤沢土木事務所、茅ヶ崎市役所など、さまざまところへ井戸を掘らせて頂きました。



東日本大震災の時には、津波被害にあわれた方のため、石巻市北上町の小高い丘の上に復興住宅を建てるというプロジェクトに参加させて頂き、地盤が異常に固くて苦勞しましたが、2ヵ月かかって深さ100mの井戸を掘らせて頂きました。被災された住民の方から「わざわざ神奈川から井戸掘りに来てもらい、ありがたい」「神奈川の人には足を向けて寝られない」というありがたいお話をちょうだいしました。微力ですが災害復興に貢献させて頂き、ほんとうに良かったと思っております。

その東日本大震災でよく耳に入ってきたトイレ事情のひどさでした。やっと届いた仮設トイレも汚物ですぐいっぱいになり使えなくなったそうです。



使用できない仮設トイレ

震災当初は寒さが厳しく、雪や雨が降ったり、夜間などは、屋外に設置された仮設トイレの使用は困難であった。トイレの数も限られているため、あっという間に便槽内は大小便の山となった。バキュームカーも不足のため、使用できずにガムテープで封鎖された仮設トイレが数多くあった。

上幸雄先生編著「生死を分けるトイレの話」（環境新聞社刊）を読んで、阪神・淡路大震災や新潟県中越地震、さらに今回の東日本大震災に遭われた方がトイレの問題で本当にご苦勞されたことを、なお一層知ること

ができました。災害時のトイレがあまりにも不潔だったために、トイレを我慢することで体調を崩されたり、ストレスにより関連死された方も多数おられたと事例をあげてかかれておりました。

この問題をなんとか解決したいとの思いで、災害用トイレの水洗化に取り組み、何度も改良を重ね、今回の新システムにたどりつきました。次のようなシステムです。

特許取得工法

井戸屋の災害用水洗トイレシステム エコ 低コスト

- 井戸を使ったシステムだから、震災時の停電及び断水に対応!
- 下水直結型[®]による水洗式なので、衛生面でも安心!

※PLAN3はマンホール貯留槽タイプ

PLAN 1 浅井戸用
(水位GLより7m未満)

標準価格 (消費税別) **¥5,300,000~**
※企業別により異なります。

PLAN 2 深井戸用
(水位GLより7m以上)

標準価格 (消費税別) **¥6,400,000~**
※企業別により異なります。

PLAN 3 井戸+太陽光発電

標準価格 (消費税別) **¥14,800,000~**
※企業別により異なります。

PLAN 4 既設トイレ+井戸+太陽光発電

標準価格 (消費税別) **¥7,500,000~**
※企業別により異なります。

PLAN1と2は、人力で地下水を汲み上げるエコで低コストのシステムです。
組み立ても簡単!
スチール製で、10分以内で組み立てられます。

- 1 基礎はベントンを敷いたり、敷設槽としても利用できます。
- 2 システムのパーツは、それぞれケースにまとめられています。
- 3 基礎とポンプを組み立てます。
- 4 テントも取り付け完成です。

テントは遮光性になっています。使用時の内観は右のようになります。

※標準価格は井戸の深さ30m以内を基準としています。
井戸の深さ30m以上の場合は、掘削深度やポンプが変更になり、SUS中継リフター及びロッド、ソフトユニットZO-電動ワイパーFC-200が必要になるため、費用が別途加算されます。

株式会社 **井戸屋** アイニズキロウ

0120-11-3286

〒253-0006 神奈川県茅ヶ崎市境587 Tel&Fax 0467-54-3241
E-mail info@idoya.jp URL http://idoya.jp/

井戸のことなら井戸屋にまかせてね!

ノーマライゼーション研究会の活動 <平成26年4月～9月>

代表 川内 美彦

平成26年のノーマライゼーション研究会は、現時点(9月中旬)で1回開催しているだけである。第2回は10月1日に開催予定であり、今年度は3回以上開催する予定である。第1回研究会は、講師をTOTO株式会社、UDプレゼンテーショングループの熊沢 宏夫(くまざわひろお)氏にお願いし、6月4日(水曜日)18時からJR南新宿ビル4階にあるTOTOプレゼンテーションホールにて、「日本の車いす使用者用トイレの誕生から現在の多機能トイレまで」というテーマで開催した。わが国の車いす使用者用トイレ開発の歴史について、TOTO社内にある豊富な資料を基にした説明であった。こういった研究はこれまで系統だったものが行われてきていないが、初期の開発から50年程度が経ち、当時を知る人も少なくなりつつある中での貴重な発表だった。

参加者は各方面から40名程度と、従来のノーマライゼーション研究会と比して多くこういった問題への関心の高さがうかがえた。

また講演の後は会場と同じビルにあるTOTOテクニカルセンターの見学会も行われ、こちらにも多くの参加者があった。

実際のトイレを前にしてトイレ談義はヒートアップし、TOTO関係者から退出を促されるほどだった。

第2回は「オリンピック・パラリンピック競技施設のアクセシビリティー障害のある人も共に楽しめるスポーツ施設づくりを考えるー」と題して、10月1日18時から日本大学理工学部駿河台校舎5号館において、川内が講演を行う予定である。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて競技場の設計作業が進んでいるが、わが国のスポーツ施設のアクセシビリティは、国際的な先進事例から比べると不十分な点が多い。わが国のスポーツ競技場ではどのような整備がなされてきており、また海外ではどのような取り組みがなされているのかについて、様々な事例を紹介しながら説明し、6年先のオリンピック・パラリンピック会場としてふさわしい競技場のアクセシビリティ整備はどうあるべきかについて、参加者と意見交換を行いつつ、共に考えていく予定である。

(協会理事 東洋大学教授)



講演会の様子



日本トイレ協会 メンテナンス研究会 2014年度 活動紹介&紙面定例会



日本トイレ協会
メンテナンス研究会

日本トイレ協会の傘下にある「メンテナンス研究会」（代表：坂本菜子）は、協会発足7年後の1992年4月に発足しました。日本トイレ協会の中では、最も長く活動している研究会です（22年間）。会員は27（2014年5月現在）で、衛生設備機器メーカー・清掃会社・コンサルタントなどが入会しております。主な活動は6～8回開催される「定例会」です。

今回は、2014年度に実施した定例会の様子を通じて、雰囲気味わっていただければ幸いです。

【第158回】2014年5月15日（木）14:30～／株式会社LIXIL（東京都江東区）

今回は、年に1回の会員総会を実施しました。

その後、法人会員でもある（株）LIXILの歴史が分かる「LIXIL資料館」を見学しました。ここではLIXILに統合した企業の歴史を伝えている場所です。主にトイレ関連の事業を担当している旧（株）INAXの展示エリアでは、日本で最も早く作られた温水洗浄便座の「サニタリイナ61」が実物展示されておりました。それから、「安全と暮らしのギャラリー」では、経年劣化の様子等をリアルに紹介していました。



懐かしい便器の展示に歓声が上がりました。

■〈講演〉「温水洗浄便座の維持管理」

講師：中森秀二氏（一般社団法人温水洗浄便座工業会）

6. 主な構成部品の材質

10

■主要部品の材質(一例)
※材質は一例です。製品によって異なります。

本体ケース
・PP樹脂
・ABS樹脂

センサー窓
・ABS樹脂
・アクリル樹脂

スイッチつまみ
・ABS樹脂

便ふた
・PP樹脂(現在)
・ABS樹脂(15年前まで)

便座
・PP樹脂(現在)
・ABS樹脂(15年前まで)

ノズル
<外筒>
・PP樹脂
・ステンレス
・PP樹脂+コーティング

<内部部品>
・ABS樹脂

	長所	短所
PP樹脂 (ポリプロピレン樹脂)	・洗剤、薬品に強い	・キズつき易い
ABS樹脂 (アクリロニトリル-ブタジエン-スチレン共重合体)	・質感良い ・キズつきにくい	・洗剤、薬品で割れ

温水洗浄便座の使用材質。素材ごとにメンテナンスを注意する必要があります。〈写真は講師使用の資料より、承諾を得て転記〉

なお、理想的な清掃方法を「公益社団法人全国ビルメンテナンス協会」と協議しました。そのノウハウがその協会のサイトよりダウンロードできますので、ぜひご活用下さい。

温水洗浄便座は、1967年(昭和42年)に国産製品として誕生して以来、日本人の清潔志向を背景に順調に普及してきました。お陰様で現在の普及率は74%（2012年度）に増加しております。それに伴い、様々な商品開発が進み、経年劣化による思わぬ事故や、誤った清掃によるトラブルなどが発覚しております。そこで私たちはそれらを解析し、向上のための啓発活動を行っております。

例えば、温水洗浄便座には複数の材質が使用されており、きちんと洗剤を選別しないと、便座が割れたり、変色する恐れがあります。製品ごとの取扱説明書をご覧ください。

■〈講演〉「コマニー株式会社の取り組みについて」

講師：高橋未樹子氏（コマニー株式会社）

弊社はパーティション（間仕切）の製造・販売・設計・施工を扱う会社として活動しております。パーティションには、いくつかのパターンがありますが、最近では、音を吸収する効果のある製品が会議室で使われたり、高さが 8.3m もあるものが結婚式場の会場変動に役立ったりしております。

トイレの場合は、個室ブースを形成するものが、家庭のトイレ以外で活用されております。

最近開発したのは、空港のトイレで便利な折戸タイプです。空港はスーツケースを持っている人がたくさんきますので、スーツケースごと一緒にブース内に入れ、片手で操作が出来、しかも空間が広く使えて、ドア側の通行人にもぶつからない…というわけです。これからも利用者に感動していただける製品を作りたいと思います。



トイレのパーティション。空港ではスーツケースを持っている人でも入りやすい「折戸」が重宝しています。

■メンテナンス研究会の雰囲気

メンテナンス研究会では、あくまで「講演会」ではなく「研究会」ですので、議論や意見交換に軸足を置いた活動を行っております。これはトイレの維持管理の情報が少なく苦勞した 20 年以上前から続く伝統です。主に東京近郊で平日の午後 3 時ごろから開催しております（不定期）。参加費は 3000 円程度（会員割引あり）です。気軽にご参加下さい。

なお右の本はネットで購入できます。



メンテ研の紙面定例会はいかがでしたか？この詳細はメンテ研の公式 HP で読むことができますので、ぜひご覧下さい。

[メンテナンス研究会公式ホームページ]

<http://www.toiletmaintenance.org>



トイレ研究会は従来の「街角トイレアカデミー」を継承しながらも、名称も「トイレ文化研究会」として【文化としてのトイレ】の研究会を2014年3月からスタートさせました。

第1回 2014年3月27日 東京新宿区 国立競技場

国立競技場に保管されている女性用特殊便器（立ち小便器＝サニースタンド）を見学しました。特に国立競技場の日本トイレ協会に対する特別なはからいで、普通では見ることの出来なかった絶好の機会を得ました。参加者は25名、参加された会員の皆様は大満足で、同時に2020年東京オリンピックで建替え予定のスタジアムも見学しました。



第2回 2014年4月4日 東京都港区 TOTO(株) 会議室

① トイレ文化論概論 講師（話題提供者） 高橋会長

「食べて出すこと」「恥の文化」「トイレの歴史＝西洋・日本」「トイレの神様」の各論、最後には茶道からトイレ道に至る非常に楽しくユニークな内容であった。

② トイレ施設設計論 講師（話題提供者） 小林副会長

学校では子供の教育に 商業施設では集客に 具体的な数字を示され、トイレと人の関わりのなかで「トイレには力がある」と結論を導かれ参加者の共感呼んだ内容だった。参加者25名。



第3回 2014年9月29日 東京都江東区 日本科学未来館見学

当協会が後援を行っている企画展「トイレ？行ってトイレ！～ボクらのうんちと地球の未来」の見学を行いました。参加者15名。

第4回 2014年10月7日 東京都港区 TOTO(株) 会議室

「ウォッシュレット開発物語・節水便器はなぜ可能になったのか」

講師 木内理事

今話題のウォッシュレット開発の裏話やここだけの話など楽しい2時間だった。

終了後も質問が絶えず予定を1時間オーバーするほど熱気の籠ったものであった。

参加者13名

(協会理事 TOTO(株)渉外企画部担当課長)

私とトイレの出会いは、高校二年の時でした。ヒカリエのトイレでお試し用ハンドクリームを試している時にふと、「ここは本来用を足す場所なのに、なぜ私は楽しんでいるのだろうか？」と疑問を抱きました。トイレを意識して過ごすようになるうちに、日本人の性質や文化をトイレを通して見る事ができる面白さに気づき、すっかり魅了されてしまいました。



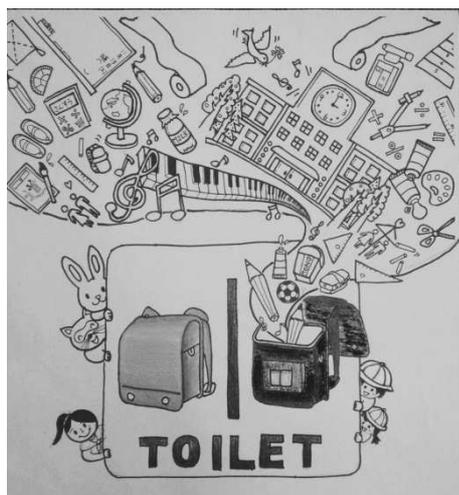
高校三年時にトイレについての卒業論文を執筆したのですが、書き始めた頃はトイレについて三万文字以上の論文など果たして書けるのだろうか、と不安でした。しかし調べてゆくうち、トイレの世界は三万文字では足りないくらいに奥深いことに気付いたのです。神道や掃除教育、日本人の清潔好きな気質、おもてなし精神や恥の文化などから日本のトイレについて考察し、その論文が優秀評価をいただきました。

論文をお読みになった母校の校長先生から、高校のトイレ改修プロジェクトを立ちあげてほしいという嬉しいご依頼をいただきました。高校トイレ改修実現に向け、高校1~3年生を対象にアンケートを実施したり、参考にしたいトイレのある他校に校長先生や庶務の先生と見学に伺ったりと、少しずつですが、現在話し合いを進めています。

また論文執筆の間、様々な企業にお世話になりました。その中でLIXIL 広報部の方にインタビューに伺ったのですが、大変親切にいただきました。その後も常滑のミュージアムや工場に招待してくださり、私の論文をたくさんの人に紹介してくださいました。私の論文をお読みいただいた人の中の一人が、日本トイレ協会の理事であり、私の憧れでもある白倉正子さんでした。

白倉さんと出会いご自宅に遊びに伺ったのですが、時間を忘れて8時間もトイレについて語り合いました。初めてお会いしたにもかかわらず、とても楽しかったのを覚えています。その際に日本ト

イレ協会に誘っていただき、学生会員として入会しました。私が論文執筆中に読んでいた本を書かれた坂本菜子さんや小林純子さんにもお会いすることができ、本当に嬉しかったです。



さらに、日本トイレ協会の総会では、私の大好きな高速道路で働いていらっしゃる方と出会うことができ、新東名高速道路のPA・SAのトイレを案内していただきました。どこのトイレも本当に素晴らしく、まさに至れり尽くせりのトイレだなと思いました。特に高橋会長と小林副会長が関わられた清水PAのトイレのクオリティーの高さには、感激しました。

また、11月に開催されるトイレシンポジウムのテーマが「学校とトイレ」ということから、シンポジウムの実行委員に推薦していただき、ポスターや概要集の表紙の絵を描かせていただきました。

私が日本トイレ協会という名前を初めて聞いた時、トイレを研究している団体があることに衝撃を受けたことを覚えています。同時に大変興味を持ちました。今、世間で大っぴらにトイレについて語られる機会は少ないと思います。しかし、以前私がトイレの論文の内容をプレゼンした時の後輩達は、みな興味津々で聞いてくれましたし、高校や大学の友達に私がトイレの論文を書いたことやトイレ協会に所属していることを話すと、面白がって話を聞きたがります。あまり表舞台に出ることのないトイレですが、みな絶対に関心はあるのです。この先、日本トイレ協会がきっかけとなって、トイレに関心を持つ人がもっと増えてほしいです。さらに、若い年代の日本トイレ協会の会員が一層増えれば嬉しく思います。

そして将来、日本のトイレがもっと良くなってほしいと願っています。「良く」の方向は、ゴージャスなのか、清潔なのか難しいですが、全ての利用者が快適だ、心地よいと思ってくれるようなトイレが日本中にどんどん増えてほしいと思います。

また、高速道路やヒカリエのトイレ見て、改めて日本のトイレの技術・清潔さ・デザインは世界的に優れていると感じました。この先、日本のトイレを日本の誇れるもの、文化として、世界にアピールしていけたら素敵だな、と思います。 (学生会員 立教大学経営学部在学中)



第30回全国トイレシンポジウム ゲットトイレ選奨応募作品			
受付順 敬称略 10/14現在			
No	テーマ	所属	代表者
1	高速道路休憩施設のトイレにおける待ち行動	中日本高速道路(株)東京支社	伊藤 佑治
2	小さなトイレで大きな感動の空間づくり ～ トイレつてこんな交流もできるんです ～	NEXCO東日本グループ 鶴岡事業所	大場 保俊
3	まちかどトイレ3ヶ所設置 公共トイレ改装における基本マニュアル提言 & 行政との取組み	みんなにやさしいトイレ会議	竹中 晴美
4	簡易無臭小便器(男子用、女子・高齢者用)	サンケイサポート	入澤 徹
5	人のトイレの前にまず自分のトイレ	コマニー(株)製品開発部	高橋未樹子
6	エコスクールWASEDAのトイレ	(株)日建設計	塚見 史郎
7	近江八幡市の学校トイレの取組み	滋賀県近江八幡市	野田 敬三
8	世界遺産の町ROMAで花と香水のトイレづくり	ローマ三越店 THE TEAM BAGNIS	樽見 秀爾 丹下 美佳
9	おおいたトイレナーレに向けた取り組み	おおいたトイレナーレ 実行委員会事務局	佐藤 栄介
10	学校トイレをARTな空間に！ こどもたちに豊かなSPACEを！ トイレワークショップ	AS輪組	中野 晶子

2014年度理事会経過（7月～10月）

第4回理事会 7月7日（月）17時30分～19時30分 於（株）レンタルのニッケン
議題

- 1 HP活動について
- 2 出版事業について
- 3 会員名簿作成について
- 4 各部会報告
- 5 事務局連絡

入退会状況 7/7現在 総計 131 問合せ 累計48件

- 6 第30回全国トイレシンポジウムについて

第5回理事会 9月1日（月） 17時30分～19時30分 於（株）レンタルのニッケン
議題

- 1 第30回全国トイレシンポジウムについて
- 2 出版事業について
- 3 会員名簿進捗状況のについて
- 4 協会30周年記念事業の提案
- 5 各部会報告
- 6 HP委員会報告
- 7 事務局連絡

入退会状況 9/1現在 総計137 問合せ 累計82件

第6回理事会 10月10日（金）17時30分～19時30分 於 設計事務所ゴンドラ
議題

- 1 第30回全国トイレシンポジウム準備進捗状況について
- 2 出版事業進捗状況について
- 3 会員名簿作成進捗状況について
- 4 事務局連絡

入退会状況 10/6現在 総計137 問合せ 累計116件

日 本 ト イ レ 協 会

〒112-0003

JAPAN TOILET ASSOCIATION

東京都文京区春日1-5-3 春日タウンホーム 1F～A

URL:<http://www.toilet-kyoukai.jp>

Tel/Fax 03-5844-6123

e-mail: jta-jimukyoku@toilet-kyoukai.jp